

お客様の健康を考えます

宝酒造では、不適切な飲酒によるお客様の健康障害を防止するため、適正飲酒の推進活動を実施しています。

■適正飲酒の推進活動

お酒は、適量であればストレス緩和やコミュニケーションを円滑するのに役立ちますが、飲みすぎによる健康障害や未成年者飲酒、飲酒運転などの問題があることも事実です。宝酒造では、適正飲酒の推進は酒類を製造販売する企業の重要な責任と考え、この問題にいち早く取り組んできました。1985年の「Say Noキャンペーン」では「いい日、いい酒、いいマナー」を提唱し、さまざまな形でメッセージを発信したほか、1986年には啓発パンフ

レット「Say No読本」を作成し、現在では1995年にリニューアルした「Say No! Press」を希望者に配布しています。また2004年には酒類業界として酒類の容器に妊産婦に対する飲酒の注意表示を入れることを決め、当社のすべての商品に表示しました。2005年には適正飲酒を促す広告「いい飲み方、あなたと考えたい」を出稿したほか、12月に開催した「エコプロダクツ展」の環境クイズにも適正飲酒を呼びかけるメッセージを記載しました。



適正飲酒に関する注意表示



「エコプロダクツ展」で使用した環境クイズ。裏面には適正飲酒を呼びかけるメッセージを記載



とにかく
Say No!

- ①20歳までの飲酒はストップ!
- ②運転するときの飲酒はストップ!
- ③妊娠中の飲酒はストップ!

■「Say No! Press」で適正飲酒の啓発

「Say No! Press」は、「知っておきたい酔いのメカニズム」「身体にやさしいお酒の飲み方」「お酒に関するウソ・ホント」の3つの章からなる小冊子です。イラストを用いながら、

わかりやすい内容となっていますので、お客様の健康と適正飲酒に役立てていただきたいと思います。掲載している内容を簡単に、各章の中から一つずつ紹介します。

大男、総身に酒が回りかね・・・(第一章より)

同じお酒を飲んでも酔いやすい人、酔いにくい人がいるのは不思議ですね。体重の多い人は血液も多く、血中濃度が上がりにくいからで、単純にいうと100キロの人は50キロの人の倍お酒が飲める計算になります。次はアルコール代謝能力による差です。アルコールを分解する酵素がもともと多い人はお酒に強いとされ、体重の多い人は酵素も多いためお酒に強いというわけです。



「チャンポン」は悪酔いの黄信号(第二章より)

「チャンポン飲みは悪酔いする」とよく言われます。この混ぜ合わせ飲みがなぜ悪酔いにつながるのかというと、まず飲む度に違うアルコール濃度に、体がいちいち適応しなくてはいけないこと。さらにお酒によって違うアルコール以外の成分にも対応しようとするため、体はてんてこ舞いの状態になってしまうからです。



飲むと赤くなるほうが、いい?悪い?さて、どっち?(第三章より)

「赤くなる人はお酒に弱い」「すぐ赤くなる方が健康的」など言われますが、どうなのでしょう。実はこの赤くなるという現象は、アルコールが分解してできるアセトアルデヒドという物質が原因なのです。アセトアルデヒドが血中に多く流れ出すと、動悸が激しくなったり、血行が良くなってからだ温まり、皮膚の表面が赤くなるわけです。このアセトアルデヒドの代謝能力の弱い人、強い人によって、「赤くなる、赤くならない」の違いがでできます。代謝能力が弱いわけですから、「赤くなる人はお酒に弱い」と言えそうですね。



親子で学ぶ「適正飲酒」

「TaKaRaお米とお酒の学校」では、社会問題となっている未成年者飲酒防止をはじめとする適正飲酒のためのプログラムを実施しています。

子供がお酒を飲んではいけない理由、大人になってからの上手なお酒との付き合い方、妊娠中や授乳期、車の運転時など絶対に飲んではいけない理由などについて「お酒のよくないチカラ」としてイラスト等も使い、子供たちにもわかりやすく解説しています。

また、アルコールが体におよぼす効果、影響を親子で共に考え学び、お酒についての正しい知識とマナーを身につけていただくために、パッチテストなどの体験も取り入れ、看護師さんに医学的にお話をいただいています。



看護師さんに適正飲酒のお話をいただきました。

アルコールに対する体質を判定するパッチテストも実施しました。